

# 多湖文書と信州大学

信州大学附属図書館松本合同図書館には、大学の前身である旧制松本高校をはじめとして、松本女子師範学校郷土資料・多湖文書など、昔から教育県として全国に名を馳せている信州において、地域に根ざした高等教育を展開してきた歴史を物語る和漢書および近世古文書が収蔵されている。

なかでも多湖文書は、松本藩戸田家の家臣として代々松本藩の藩校崇教館の教授を務めた多湖家に伝わる蔵書と古文書である。和漢籍および文書群の特徴は、17世紀における戸田家の松本藩転封以前の美濃国加納、山城国淀、志摩国鳥羽時代から始まり、19世紀後半の明治維新に至るまで、約200年近くにわたり、多湖家の歴代当主が収集・編纂した和漢書や松本藩の出版物、同家伝来の漢籍稿本および未定稿、往復書簡類などから構成されている。

多湖文書は、これまで未整理のため公開されてこなかったが、今回その一部を初公開するきわめて貴重なものである。





93 信州松本十景句集 花実園野牛編  
明和3年(1766)

中国の瀟湘八景および日本の近江八景などになって、松本の10ヶ所の景勝を選定した句集。十景それぞれに彩色の絵が添えられた豪華な精写本。近世中期の松本俳壇の様子を伝える貴重資料。添えられた俳号と実名の紙片から、当時の松本俳壇の構成員が判明する。



94 山家桜花  
(現松本市里山辺・  
美ヶ原温泉)



95 宮村夜燈  
(現松本市深志・  
深志神社)



96 今町茶店  
(現松本市大手～  
蟻ヶ崎)



97 放光蓮池  
(現松本市蟻ヶ崎・  
放光寺)



98 新橋鶴飼  
(現松本市新橋)



99 念来時鐘  
(現松本市中央・  
旧念来寺)



100 筑摩納涼  
(現松本市筑摩・  
筑摩神社)



101 西山残雪  
(北アルプスの眺望)



102 雌羽瀑布  
(女鳥羽川)

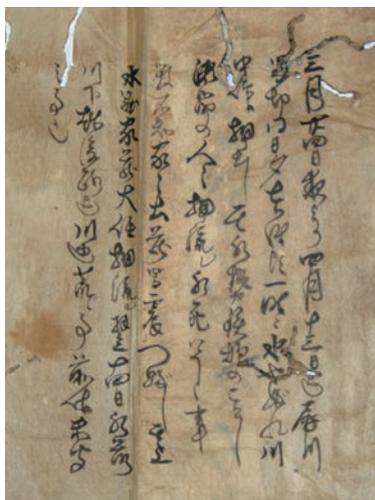


103 浅間温泉  
(現松本市浅間温泉)



104 天変一夜の湖 作者不詳 弘化4年（1847）

善光寺地震の災害絵図。弘化4年（1847）3月の善光寺大地震による山崩れと犀川の流れを遮断して引き起こした洪水の被害状況を絵図に仕立てたもの。崩れた土砂についての具体的数値が記される。また埋没集落、水没地域、焼失被害地域、家屋倒壊地域等、各地の被災状況を色分けしてある。



三月廿四日夜より四月十三日迄、犀川留切、同日夕七ツ時頃、一時二水やぶれ、川中嶋江押し出し、其水勢鉄炮のごとし、瀬筋の人々押し流シ、水死いたし候事数不知、家々土蔵等震つぶし、其上水難家蔵、大低押し流ル、翌十四日水落川下越後路迄川辺荒候事、前代未聞之事也、

【史料翻刻】



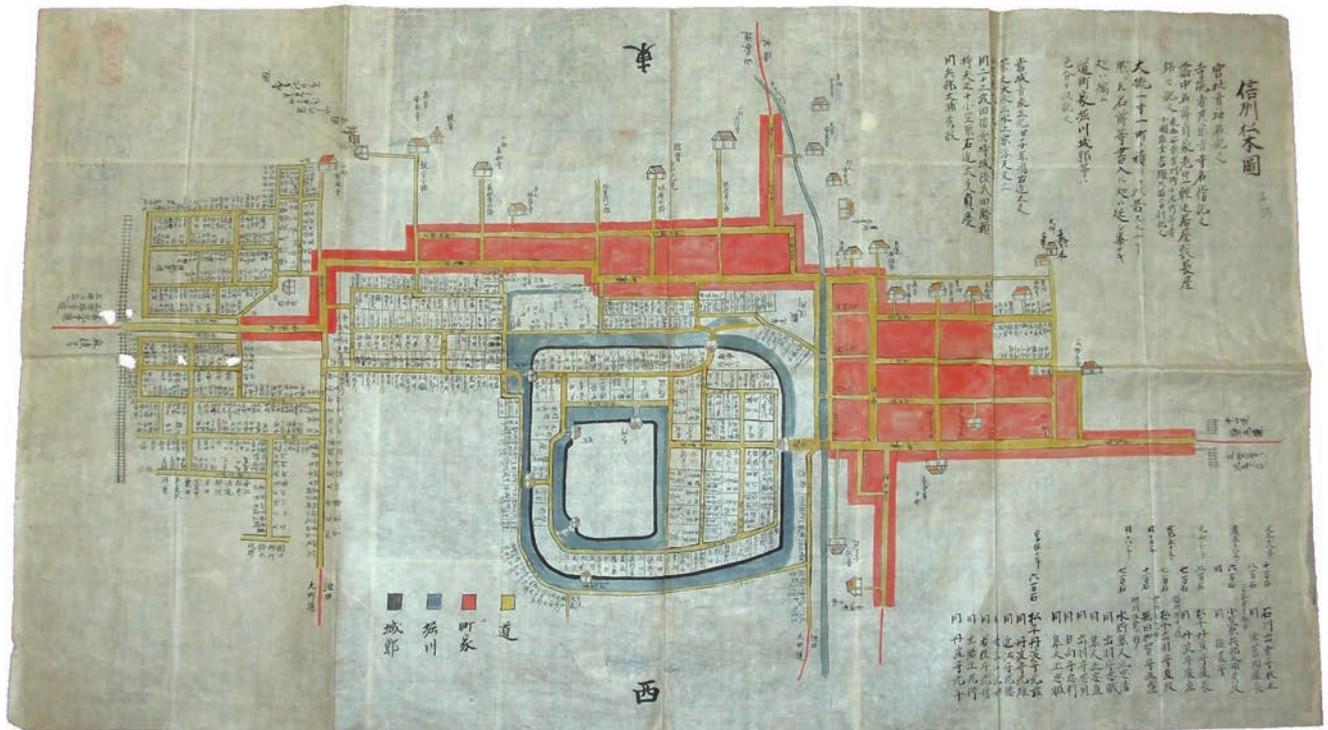
105 信濃国大地震火災水難地方全図  
稲荷山宮匠編刊 弘化4年（1847）

善光寺大地震の災害状況を記した絵図。置物一鋪。余震が収まらないなかで、遠方の友人たち多数の問合せに応じるために印刷したと図中にあり、臨場感を添えている。



106 弘化四年大地震并山崩大火水押人死田畑水損  
有増記 作者不詳 弘化4年（1847）

弘化4年（1847）3月の善光寺大地震に取材した読売（瓦版）。地震の被災状況を記録する。印刷の様子は典型的な田舎版。地元・信濃国内で発行されたものと思われる。稀本。



107 信州松本図 作者不詳 19世紀前半

19世紀前半の松本城下町の絵図。紙本彩色。1町（108m）を1寸（3.3cm）で作図している。武家地には家臣名、町人地は朱で彩色。余白に松本城と歴代の松本藩主を記す。学館（宗教館）および松平（戸田）光年の書込から、上限年代は寛政年間（1789-1800）をさかのぼらない。



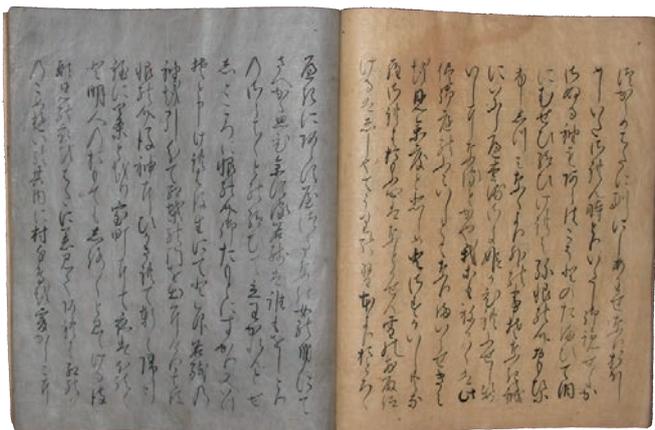
108 澹齋長沼先生行狀 多湖安元校訂 天保12年（1841）

長沼流兵学の教本。半紙本。松本藩の藩校、崇教館板の木活字本と同じ活字を使用して印刷されている。松本藩の長沼流兵学の指針とすべく、松本藩の儒者多湖安元が天保12年（1841）に校正・出版した。松本藩板は信州大学以外に伝存しない貴重本。多湖家旧蔵書。



109 太子開城記 作者不詳 17世紀（推定）

聖徳太子の伝記を物語風に仕立てた一代記。綴葉装。金泥・草花文の下絵による鳥の子紙を使用。斑山文庫（高野辰之）旧蔵。本来は極彩色の絵入り奈良絵本だったが、惜しいことに絵はすべて剥がされている。題簽や紺紙の表紙、見返しや鳥の子紙の料紙等まで、金切箔や砂子・金泥等で装飾を施した、豪華な造りの室町時代物語の写本。他に伝本はなく、室町時代物語のみならず聖徳太子信仰等の研究にも貴重な資料。『室町時代物語集』の翻刻底本。



110 恨の介 作者不詳  
慶長14年（1609）—元和3年（1617）頃（推定）

仮名草子。写本一冊。作者不詳。慶長11年（1606）、伏見城松の丸番衆松平若狭守近次をモデルとする密通事件を、恋物語として構成したもの。慶長14年（1609）以後元和3年（1617）までの間に成立（推定）。『日本古典文学大系仮名草子集』の底本のひとつ。古写本としては国内最古に属する貴重本で、学外での一般公開は今回が初めてである。